



(発行)
熊本市教育委員会事務局
学校教育部 総合支援課
学校サポート班
(文責)
指導主事 田中 慎一郎
tanaka.shinichiro@city.kumamoto.lg.jp

監視ではなく関心がほしい…

～ 子供を守るすべ～

熊本市教育センターホームページからもバックナンバーを見ることが出来ます。(〴〵) 且



心を持ちたいですね。



コロナ禍でも正月はやってきます。お年玉で、急にお金が手に入る子供も多いでしょう。中には、普段課金していない子供も、もらったお金で課金するかもしれません。しかし、そこに潜むリスクもあります。

実はオンラインゲームによっては、課金で得られたポイントで、ゲーム上のショップで自分以外にアイテムを買ってあげることが出来ます。ここでどういうことが起こるかという、立場的に強い子供が弱い子供に課金をさせて、アイテムを買わせることが可能になりま

す。保護者は自分の子供が、課金したことしかわかりません。誰かにアイテムを買わされているとは気づけないのです。子供のためにあげたお年玉が、渡した子供のために使われたと見えませんが、実はそうでない場合もあるのです。

コンビニエンスストアで販売されているプリペイドカードを購入し、そのカードを他の友達に取り上げるやり方でさえ、保護者には見えにくいものです。しかし、先に示した方法は、保護者が、いっしょにゲームをして内容を理解していない限り見抜くことはできません。

どのようにしたら、子供

を守れるのでしょうか。子供のために大人がゲームをいっしょにするというのなかなか難しいと思います。ここで大切なのは、困ったときにちゃんと我が子が自分に相談してくれることです。子供が信頼しているのであれば、友達からプリペイドカードやゲームの中でのアイテムを要求されたら、自分の保護者に対してSOSを出すでしょう。

子供たちは、常にチェックされる「監視」よりも、自分の困り感に気づいてくれるための「関心」がほしいと訴えます。子供との信頼関係こそが、彼らを被害から守るすべかもしれませんね。冬休みの我が子に関

おはなし 聞いて



～自分の身は相談で守る～

悪い大人に驚くべき怖い話を聞きました。「未成年の子供と出会うには、ゲームをすればよい。ゲームの中で信用させると、未成年の子供たちは簡単にだまされる。まずは、写真を送らせて、『それをいろんなところに公開する』と怖がらせ、その子の友達の連絡先を聞き出す。そうするとゲームをしていない子供にも出会うことができる。」オンラインゲームで知らない人とつながると友達までも被害に巻き込むこととなります。おかしいと感じたときは、すぐに親や先生など周りの大人に相談してください。絶対に自分だけで判断しないでください。

ハル つぶやき



イルミネーションの季節ですね。LEDか白熱球かと聞かれれば、あたたかさを感じる白熱球の明かりが好きで田中です。照明といえば！最近、オンラインで講話や会議をする機会が増えたので、思い切って購入することにしました。丸っこいやつもあれば、PCのカメラ近くに設置する四角いやつもあります。今回は、マイク選びで失敗しましたので、ネット通販に書かれた説明をよく読みながら商品を選びます。電源を必要としない充電式がベストですね。▼ありました！！LEDですが光量も色合いも調整できます！ということは、あたたかい感じもPCの画面越しに出せるということです(*v*)早く使いたい！！そのチャンスはすぐにやって来ましたが、大舞台です。韓国にあたたかい感じの画像が届くということです。▼さて、当日。準備は万端です。PCの前に、マイクを設置し購入したライトもばっちり設置しました。もちろん、色合いはあたたかみバージョンです。活発な議論が進みます。韓国の先生から、私にいろんな質問が来ます。照明の効果だ(〴〵)！と喜んでいたのですが、終わり方にふと気づきました。照明がどことなく暗いのです… 3時間にも及ぶ会の中で電池の残量が減ってきて光量が落ちてしまったのです。▼PC上の自分の顔を確認したら、最初に比べ光のせいで、とって顔色の悪い中年のおじさんが映っています(T_T) きっと、韓国の人をはじめ参加した人は、「時間をかけてこの人、どんどん顔色が悪くなってきた(驚)」と思ったことでしょう。私自身は、3時間たってもまったく疲れてなかったのですが、画面の向こうの相手には、顔色の変化から徐々に疲労感が伝わってしまいました…今度は、光量をどんどんあげていって元気になっていく演出もありですね(笑) ▼顔色は悪くなって行くのに、逆に時間と共に活発に議論が進んだオンラインでの会。終了後に参加者からの感想が届きました。「画面越しにうなずいたり笑顔になったり、そのような表情の変化で話しやすかった。」なるほど！顔色よりも大切なのは、「反応する」こと。オンラインでもネットを介さない直接会う対面でも、コミュニケーションに大切なのは、相手からの投げかけに対してきちんと「反応する」ことなんですね。